

Car Entertainment Magazine **GENROQ**

[ゲンロク] **ASTON MARTIN**

2022 JAN
No.431 | 1
特別定価 1200Yen

Super Battle 頂上対決2022

[最終進化系比較] ランボルギーニ・ウラカンSTO vs ウラカンEVO

[待望のMT対PDK] ポルシェ911カレラGTS vs 911タルガ4

[EV兄弟の個性] アウディe-tron GT vs ポルシェ・タイカン



特選ショップ全国版

コンペティションの血統
フェラーリ812コンペティツィオーネ初試乗!
マクラーレン720S GT3X／765LTスパイダー

REPORT●中三川大地(NAKAMIGAWA Daichi) PHOTO●土屋勇人(TSUCHIYA Hayato)

研 ぎ澄まされたスペチャードで、もなければ、ゴージャス一辺倒のグランツーリスモでもない。その双方を兼ね備えてラインナップの頂点に君臨する存在だけに、それをうまく着こなし、乗りこなすのは難しい。SF90ストラーダーが登場するまでは名実ともにっととも高性能なフェラーリのカタログモデルだったフェラーリ812スーパーファストの、そのオープンモデルである812GTSである。800psを堪能できるV12エンジンと、オープンエアを兼ね備えている。

ツルシの状態で十分すぎるほど贅沢な存在ながら、そこにはさらなるオジナリティを。かといって、やりすぎではないし、性能もスポーティ感たしかくな。福岡で活動するECアを兼ね備えている。



50年の時を隔てて

未来へ受け継ぐ エレガンス

EC.SPEC Ferrari 812 GTS



ブリクストン・フォージドの新作「CM-GR」。スーパースポーツから大型SUVまでを許容する強度や剛性を持つ。19~24インチまでの幅広いサイズ設定に、豊富なカスタムフィニッシュもある。今回は2ピースでフルボリッシュ仕上げに。ボディカラーが赤であることを含めて、812GTSにはこのくらい華やかなほうが似合う。

フェラーリ純正カーボンボディパーツはそのままに、排気系だけをモディファイした。カブリストのエキゾーストシステムと中間パイプに、パワークラフトのフロントパイプを組み合わせた。



いかにもイタリアンスポーツらしいトンネルバックスタイルを持つ。ルーフを開ければインテリアも露わになるからこそ、内外装のトータルコーディネートが重要だ。

スペックは、そんな要求に応える妙技を持ったカスタムが得意だ。特にこの個体、エクステリアはフェラーリらしい赤色ボディに美しい折り目を持つカーボンボディバーツが相まって、実にスポーティな印象を抱かせる。インテリアはホワイトレザーに包まれていて、エレガントな雰囲気が漂う。こうした二面性を結びつけるような存在のが、足もとに投入したホイールだった。

気鋭のアメリカン鍛造ホイールブランドであるブリクストン・フォージドの新作、CM-6-Rである。精密機械が宝石品のように美しいディス

ではなく、わずかな段付き内厚リムを潜ませたところに、CM-6-Rの魅力がありそうだ。そしてECスペックは、そこにコーディネートの可能性を見出したのである。なお、タイヤサイズは大きくなつても、銘柄は純正と同じミシュラン・パイロットスポーツ4Sであること、特にこだわった部分だという。

なお、足まわり以外にも工夫はある。ボディ側は純正を貫きながら、エキゾーストシステムを変更して、フェラーリ固有のV12サウンドに磨きをかけた。中間パイプを含めてシステム自体はドイツのカブリスト製を、その上でセンターパイプはパワークラフト製を選んでいる。

812GTSは、60年代後半から70年代前半にかけてデイトナ・スピードイダーと呼ばれた365GTB/4スピайдー以来の市販型「V12+スピайдー」モデルだという。そう考えるとデイトナ・スピайдーが履いていたセンターロック式ワイヤーホイールや、6ウェーバー・キャブの4・4&V12がもたらす豪快な音色をオマージュしたカスタムのようでもある。ECスペックは単に一過性の流行りを取り入れたのではない。フェラーリの歴史をリスペクトした作品のようだと思えた。

ホイールと同じくラグジュアリーな雰囲気を持つホワイトレザーが多用される。今後はダッシュボードも白色にする予定だ。汚れやくすみを気にせず白を選ぶ心意気がいい。



10本のY字スパークはいかにもシャープな造形ながら、リムエンドの手前で収束し、リムは一定の厚みを持たせたデザインなのがその理由だろう。一見する限りの攻めた造形だけのかもしれない。

おもしろいのは、ここまで大口径化したにも関わらず、やり過ぎなどに大きさを訴えてはこない。10本のY字スパークはいかにもシャープな造形ながら、リムエンドの手前で収束し、リムは一定の厚みを持たせたデザインなのがその理由だろう。一見する限りの攻めた造形だけ